

## 平成 29 年度 終了評価書

- 研究機関 : 株式会社日立製作所、日本電信電話株式会社
- 研究開発課題 : 自律型モビリティシステム(自動走行技術、自動制御技術等)の  
開発・実証(課題Ⅰ)
- 研究開発期間 : 平成 28 年度
- 代表研究責任者 : 岡本 学

■ 総合評価(5～1の5段階評価) : 評価4

■ 総合評価点 : 21点

### (総論)

積極的な姿勢で、安定して研究開発に取り組んでいる。

サイバー攻撃対策に対する重要性の認識は年々高まっており、今後はビジネス化も見据え、課題Ⅲとも連携しながら標準化と事業化の両輪で取組を進めて欲しい。ビジネスプロデューサーのより積極的な関与が望まれる。

### (コメント)

- 積極的な姿勢で研究開発に取り組んでいる。
- 事業化の視点も入っており、安定感がある。
- 今後はビジネス化を見越した取組を進めて欲しい。
- ビジネスプロデューサーのより積極的な関与が望まれる。

## (1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(5～1の5段階評価) : 評価4

### (総論)

既存技術を活用している部分もあるが、セキュリティ対策に関する評価をほぼ終えている点は評価できる。サイバー攻撃対策に対する重要性の認識は年々高まっており、本研究開発の重要性も増している。

### (コメント)

- サイバー攻撃対策に対する重要性の認識が高まってきており、研究開発の目的や政策的位置付けとして適切であると言える(目標設定当初から、大きな変化はない)。
- セキュリティに関する評価をほぼ終えている点は評価できる。
- 既存技術を活用している部分もあるが、今後の取組に期待したい。

## (2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(5～1の5段階評価) : 評価3

### (総論)

課題Ⅰ～Ⅳの間や、研究開発機関の間での連携は十分取れている。

標準化と事業化との両輪で研究開発を進めている点は評価できるが、ダイナミックマップの更新・配信技術との連携が重要なポイントとなるため、課題Ⅲと連携し、具体的なサービスレベルでの検討を進めていくことが求められる。

### (コメント)

- 研究機関の間での連携が取れている。
- 課題Ⅲと連携し、具体的なサービスレベルでの検討を進めていくことが必要。
- 標準化と事業化との両輪で研究開発を進めている。

### (3) 研究開発目標(アウトプット目標)の達成状況

(5～1の5段階評価) : 評価3

#### (総論)

最終的なアウトプット目標の達成に向けて、各要素技術の基本的な検討については計画通り進捗しており、1年間という限られた研究開発期間であったが、当初目標は達成できている。

#### (コメント)

- 各要素技術の基本的な検討については、最終的な目標達成に向けて計画通りの進捗が見られる。
- 基本的な方式検討は終えており、評価できる。
- 1年間という限られた期間ではあったが、当初目標を達成している。

### (4) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた取組の実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4

#### (総論)

本研究開発で得られた知見を踏まえて、ITU-T における国際標準化に提案し承認される等、標準化に向けた活動を含め、積極的に取り組んでいる。今後はSDN への取り組みが期待される。

#### (コメント)

- O3 での成果や本研究開発で得られた知見を踏まえて、ITU-T における国際標準化に提案し承認された。
- 今後、SDN への取り組みが期待される。
- 標準化に向けた活動を含め、積極的に取り組んでいる。

(5) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた計画

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

事業化を見据えた視点がしっかりしており、適切に計画が立てられている。今後  
も引き続き積極的な取組を進めた上で、課題Ⅲとの連携をさらに進めていって  
欲しい。

(コメント)

- 課題Ⅲとの連携をさらに進める必要がある。
- 事業化を見据えた視点がしっかりしており、適切に計画が立てられている。